

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

教育・文化分科会 議事録

報告日 平成21年6月12日

日時	平成21年 5月22日(金) 13:30 ~ 15:00		
場所	湖北町役場 議会全員協議会室(3階)		
議題	テーマの絞り込みと今後の運営について		
出席者	寺村正和委員、林多恵子会長、脇阪宏一委員、小竹佐代子委員、佐金利幸委員、藤井繁副会長、竹本直隆委員、村井弘委員、服部貴美代委員、西田清信委員、竹端康二委員		
市	分科会事務局 伊藤、辻		
6町	木之本町教育委員会職員、高月町教育委員会職員、湖北町教育委員会職員		
傍聴者	なし	報道機関	なし

【協議結果】

- ① テーマの絞り込みについて
 - ・ 次回のテーマは、「少子化にともなう学校施設の統廃合上の問題点・あり方について」(地域文化の継承も念頭に置いて)と決定
- ② 今後の運営について
 - ・ 長浜市の企画・総務部門や各町当局でも一定の議論を経て進められていることを考慮し、そこから大きく外れないようにして分科会の議論を進めていくことが確認された。
- ③ 次回の日程
 - ・ 日程 7月3日(金) 13:30~
 - ・ 開催場所 高月町役場
 - ・ テーマ 少子化にともなう学校施設の統廃合上の問題点・あり方について

【主な意見】 (要点列記)

- | | |
|-----|---|
| 会長 | 地域全体の人間力を育む人づくりという大きなテーマのもとに、①人権が尊重されるまちづくり、②学びの環境の充実、③生涯学習・生涯スポーツの普及、④地域文化の継承発展、⑤多文化共生のまちづくりの推進を念頭に、各町での問題点等を話し合いたい。 |
| A委員 | 西浅井町でも少子化が進み、2年後には1学級10人余りになってしまう状況。地域にあった子どもの育成を考えると、機械的な教え方ではなく、マンツーマン式の教育が大切。(先生に時間的な余裕がない) |
| B委員 | 余呉町では平成18年度に3つの小学校を統合した。学校のバス問題などいろいろと課題が残っている。
学級が少ない中で、今後、充実した教育をして欲しい。
合併後、親の理解を深めながら、しょうがい児教育が充実されることに期待している。 |
| C委員 | 子どもたちが、生まれ育った地域とのふれあいの機会が減少していくことが不 |

- 安。小学生の英語教育の推進も必要だが、国語力が発揮できる機会を設けて欲しい。道徳観念が少し足りないのでは。
- D 委員 4 小学校の内、高月小学校だけが 2 学級で、あとは全部 1 クラスの小規模校。2 3 年の入学生が 4 人という学校も予測される。学校はある程度切磋琢磨するところで、競争がないと人間というのは成長しない。
子どもの数が少ない現状が、様々な面（特に不登校）に影響を及ぼしているのではないか。
- E 委員 山間地の小学校統合は、教育以外の問題があり、相当長い年月を要するのでは。基本的に教育という観点からは、単学級を解消していく方向が必要。
湖北町では、保育園・幼稚園の老朽化にともない「認定こども園」という方向で整備検討をしている。
- F 委員 給食も「自校方式」を採用しており、今後、センター方式への移行を検討。
合併後、長浜市との一体感を出すため、虎姫町という名前を廃止することになったが、虎姫の歴史や文化など由緒ある町として誇りがもてるよう授業に反映して欲しい。
教育委員の選任について、6 町への配慮や公選制など、教育委員制度の検討を。1 市 6 町合併に向けた「教育長会議」の招集を早急に。
- G 委員 町内でも高齢者世帯が多くなってきているので、長男や次男に跡を継いでほしい、そのための教育が必要。
モンスターペアレントの話題を聞くが、先生には、もっと強くなって欲しい。学生服を無くし、自由な服装を。
- H 委員 長浜の環境、長浜の良さ、長浜に対する誇りなどが子どもに育っていないので、自分の好きなことだけを考え、好きなところに行ってしまう子どもが多い。
長浜の将来を考えれば、長浜のことをきちんと考えられるような人間（長浜の良さ）を育てなければならない。
子どもたちに必要なのは、道徳心、礼儀、我慢する力。
一人ひとりの人間性を育てていかないと、教育レベルの向上は見られない。
- I 委員 1 学級 10 人未満では 6 年間マンネリ化となり、親も子も安住し、自己改善が生まれない。
競争や集団生活を営む中で「互いの工夫」が生まれる。
統合は地域の実態に即して行うべき。
子どもの将来のためには、一人ひとりの個性や学力を伸ばすことや、人の優しさを大切にする知性、そして道徳を育む教育を進めていくことが大切で、それが大勢の子どもの中から芽生える。
小中一貫教育に取り組むことによって、不登校の改善や心豊かな子どもが育つ。
小学校は中学校区に 2 つが理想。
制服は着ることによって身を守る「一種の鎧」。
- J 委員 長浜市の学校耐震化は平成 23 年度中に、すべての耐震化率を高める方向で進められている。
学びの環境は学校だけではなく、地域性もある。地域の文化を継承していくことも必要。
小中一貫校の取り組み推進を。
- 会 長 小中一貫校については今後いろいろ意見が出てくると思うが、小規模校と少人数学級との違い、合併統合についてもお互いに理解しながら進めていきたい。
統合問題については、皆さんの意見をもう少し聞きたい。
- F 委員 「少子化にともなう学校運営上の統廃合の問題」は皆さんほとんど話されている問題。
学校の制度的な問題、小中一貫も含めて学校の授業のあり方の問題、学校と地域の役割分担の問題、特別支援の問題など 4 つぐらいの分野に絞られてきたの

	ではないか。
会 長	特別支援、発達しょうがいが増えている。
I 委員	発達支援の場合は、明らかに見える場合と、見えないものがある。
B 委員	テーマを4つほどに絞っていただいたことに賛同です。
A 委員	学校や子どもたちを現状だけで判断しない方がよい。
会 長	子どもの教育を考えたとき、周囲の都合ではなく、子どもの目線に立って物事を考えていくことが必要。
I 委員	子どもたちの成長を見たとき、人格を培う最終の場面は義務教育の9年間。15歳を超えるとおおかた形成されてしまう。小中一貫交流の中で、不登校の解消、学力の向上が図れる。
	幼稚園の3歳児を含めて12年間のスパンで教育をしては、 地域ぐるみで学校を守り育てていく「コミュニティスクール」を推進し、広めていきたい。
C 委員	地域でのふれあいが一緒にとれない、余裕のある教育のもとでの小中学校の統合を前向きに考えている。
D 委員	高月町も高月中学校の老朽化をふまえ「高月学園構想」を策定し、小中一貫校へ具体的に動き出している。
	学校給食についても、湖北町と一緒に出来ればと賛成している。
E 委員	地域の人たちが一生懸命前向きに、まちづくりやひとづくりをすれば、よいまちができる。
	少子化は互いに共通する課題で、地域リーダーの育成、地域との関わりを増やしていく、といった取り組みが必要。
F 委員	議論が学校の授業上の問題や施設の問題、学校の制度的な問題など複雑になっている。
	学校の統廃合は、子どもの数や将来の出生率、学校経営、財政だけの問題で進めてはならない。しかし、一方では学力の向上もあるので、次回は、少子化にともなう学校施設の統廃合の問題点・あり方についてポイントを絞って議論を進めては、
会 長	次回のテーマは、「少子化にともなう学校施設の統廃合の問題点・あり方について」（地域文化の継承も念頭に）とします。
	委員会での議論の一方、長浜市の企画・総務部門や各町当局でも一定の議論を経て進められていることを考慮し、そこから大きく外れないようにして、分科会の議論を進めていきたい。
会 長	次回の分科会は、7月3日（金）午後1時30分から高月町役場でお願ひします。

【配付資料】

- ① 小中学校学級数および、児童生徒数（1市6町）一覧
- ② 平成21年度 ながはまの教育（長浜市教育行政方針）
- ③ 平成20年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書（長浜市教育委員会）

以上